

# 福音の園だより

平成18年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞  
平成27年度「介護職員確保・定着のための優れた取組」表彰  
グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定  
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一  
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局  
☎ 049・230・1111 (FAX 230・1112)

## 新年度を迎えて

### 「カマス理論」を乗り越えて

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳  
男子400mハードル世界陸上 銅メダリスト  
で、日本記録保持者・為末 大 ためすだい 氏の座右の銘は「あきらめない」。マラソンや競歩ならともかく、シンブルに脚の速さを競うトラック競技では、生まれつき脚の速い人種には叶わないと云う日本人の「あきらめ」気分を、為末選手のメダルが吹き飛ばした。「陸上競技界」について語る同氏『スポーツを語り合う会』講演録から、「介護業界」にも通じるヒントを得たい。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

中学3年で全国中学選手権の100m、200mで優勝し、全国中学生チャンピオンになった。陸上競技界では早熟型はその後伸びないと言われ、高校3年のとき、初めて1年後輩の選手に負けた。その後、高校3年の「広島国体」で400mハードルに出場し、「ハードル競技選手」になった。



「私が思うに、ハードル競技は日本人に向いていません。速く走るには、当然脚が長い方が有利。特に腿が長いのは有利でも、9・14cmのハードルを越えるとき、片脚を振り上げるように跳んでいく。この『脚を振り上げる』動きを考えると、脚が長いことが必ずしも有利ではなくります。長い間、【身長170cmで胴長短足】とマイナス思考だった。「幸か不幸か、私は短い脚を持っていました。脚の短い私に有利に働いているかな、」と気付いた。座右の銘「あきらめない」を心に刻んで、ハードル競技に掛けてきたと云う講演趣旨。

### 「思い込み」や「固定観念」から解放され、

為末 大氏が「カマス理論」を紹介しています。水槽に透明な仕切りを設け、片方にカマスを、片方に餌の小魚を入れる。小魚が見えるのに捕まえることができない。この状態にカマスが慣れると、仕切りを外しても小魚を食べようとしなくなる。そこに、仕切りがあった頃を知らないカマスが加わると、新参者が餌を捕るのに触発されて、前からいたカマスも小魚を食べ始めると云う「カマス理論」。「思い込みや固定観念、因習」の一面を表しています。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



昨年6月、川越市へ「小規模多機能型サービス（含むグループホーム）開設提案書」を提出した折、窓口で「小規模多機能型は難しいと言われていますが、福音の園さんはその点、いかがですか？」と尋ねられた。融資交渉先金融機関担当者からも同様に尋ねられた。ある介護事業者の小規模多機能型サービス新規開設について「回を重ねて協議したが断念した！」と云う「助言情報」もあった。

義務付けられている2ヶ月に1回の「運営推進会議」。第三者構成員「民生児童委員3氏の意見・要望」を通して「カマス理論」克服となるヒントを頂戴することが出来ました。ようやく「思い込みや固定観念」と云う呪縛から解放されました。高飛車な物言いになりますが、「カマス理論」を乗り越えた上で新規「開設提案」を行ない、今に至りました。克服出来た、その詳細については「経営戦略」となるため、今はコメントを控えます。開設後、しばらくしてから開示いたします。

### お便り紹介

福音の園だよりのご送付、誠にありがとうございます。また、園便りの中で、「利用者の思いを汲み取り…『解語者』としての感性…」につきましては、これまでの尽力・熱い想いを感じるばかりです。先日訪問したグループホームでは、新人職員の方が利用者の意向を掴めず、目に涙をためていらつしやいました。経験や積み、皆様のような職員になって下さることを願うばかりです。

（埼玉県地域密着型サービス外部評価機関〇〇〇代表 S・Y様）

○先日は、貴重な時間を割いて説明いただき、誠にありがとうございます。お陰様で、親族全員が納得のいく説明をしていただき、感謝しております。（中略）現在は、リハビリ（歩行訓練等）に励んでおります。しかしながら、今までのように一人での生活は、困難なようであります。（中略）何か動きがあれば、ご連絡を差し上げたいと思っております。（後略）（入居申込者 Y・N様）

### 御礼 4月全員研修会

「小規模多機能型居宅介護施設・管理者に学ぶ」  
（有）福寿「わこうの丘」管理者 小林勝美様（和光市）

